

第3回 行政改革推進委員会・総合計画推進市民会議 会議録

開催日時	平成24年2月28日（火） 19時00分～20時50分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンターホール
出席者 (敬称略)	<p>(委員) 中川幾郎、内橋圭介、内橋実三郎、大前道廣、大谷光治、 笹倉幸代、竹内泰彦、蓮池昌美、水島智子、吉田光一郎 (欠席：井上喬司、中野真理子、西村風菜、藤原貴之)</p> <p>(オブザーバー) 來住市長</p> <p>(事務局) 吉田ふるさと創造部長 企画政策課：高田課長、萩原主査、板場主任 行政経営室：筒井室長、徳岡主任</p>
会議の概要	
<p>会議次第に従い、協議した内容は、以下のとおり。</p> <p>○開会</p> <p>○市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜の時間帯にもかかわらず出席いただき、ありがたく思う。 ・来年度の事業で主なものは、「地域経済の活性化」として、播州織総合素材展や上比延工場公園、農産物直売所・旬菜館による農業振興、「安全・安心なまちづくり」として、平成23年台風12号災害の被災地での防災対策、「教育環境の整備・充実」として、学校の耐震化、給食センターの統合・改築がある。 ・西脇市始まって以来の大きな予算規模となったが、合併特例債などを活用するので、借金が増えて首が回らなくなるというものではない。 ・総合計画は、後期基本計画策定に向けて来年度は審議会を設置する。 ・行政改革は、施策について市民の皆様の意見を伺う制度を検討する。 ・今日は、市民の立場でいろいろとご意見を頂戴したい。 <p>≪行政改革推進委員会≫</p> <p>○議事1 市民検証制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■会議資料に基づき、事務局から説明 (座長) ・事務局の説明があったが、御意見や確認事項があればお願いします。 (委員) ・資料の「施策の実績欄」の方向性に示してある矢印の根拠は何か。 (座長) ・矢印の向きが上向きの場合は、その数値が上昇するのが望ましいということを表しているもので、総合計画の中で最初から設定されているものである。 ・後期基本計画の推進期間が始まるのにあわせて、「施策指標」と「政策指標」に分けて指標を再整理し、精密化したいということ。 <p>≪総合計画推進市民会議≫</p> <p>○議事2 平成24年度「行動計画」及び主要事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■会議資料・スライドに基づき、事務局から説明 (意見なし。) 	

会議の概要（続き）

○議事3 後期基本計画の策定について

■会議資料に基づき、事務局から説明

- (座長) ・事務局から説明があったが、後期基本計画において力を入れる取組や事業について、委員からの意見をうかがいたい。
- (委員) ・3月には素材展があるが、播州織は数百億円の製造額を誇る地域の基幹産業である。播州織をはじめ、商工業にもっと力をいれてはどうかと感じる。
- ・全てのことをやってじり貧になるより、メリハリをつけた重点配分を望む。
- (委員) ・支出面では、「選択と集中」をしっかり考えていると感じる。一方、収入面では、市債が増えているのが気になる。市債発行前提の予算はいつか厳しくなるのではないかと心配である。
- ・長期的な視点での人口増の取組が必要だと感じる。
- (委員) ・多くの若者は大学に行くため西脇市を出てしまうと、働きたい場所がないため帰ってこない。それが少子高齢化や人口減少の悪循環になっている。若い人が戻って来たいと思える、活気あふれるまちにして欲しい。
- ・去年よりも今年度は支出が増えているので、削減できるところは削減すべき。
- (委員) ・私自身も学校卒業後、職人として違うまちで勤務し、その後地元で起業した。地場産業だけにこだわらず、地元での起業支援やさまざまな産業の支援や重点化をしていてもらいたい。
- (委員) ・市は来年度予算において人件費を約1億円削減し、頑張っていると感じた。市も努力しているので、市民自身も何か努力や工夫することができないか考える必要があると感じた。
- ・命、安全、ライフラインが何より優先すると思う。その次には、心豊かな人づくりのための人権施策も大事だと考える。
 - ・今後は、短期的にはさまざまな地域課題に対処療法をしながら、長期的な計画も立ててもらいたい。
- (委員) ・少子化が気になる中で、新規事業の不妊治療費助成は評価できる。加えて、子どもを生み育てることに関して、西脇市ならではの施策を打ち出し、安心して育てられるまちになって欲しい。
- ・地方で生まれ育った人が都心で一度勤務した後に、再び自分の生まれ育った故郷に戻って働くUターンを進めることも必要だが、魅力的な情報発信や農地付の古民家活用などにより、Iターン（生まれ育った故郷以外の地域に就職すること）が活発になることも必要である。いずれにしろ、魅力的で住みたいと思えるまちにすることが大切である。
- (委員) ・事業実施に当たっては、評価を重要視していると感じた。しかし、計画策定の段階から評価だけを気にしすぎると、失敗を恐れて安全な線を引いてしまうのではないかと感じる。
- ・産業振興に関して、今までのやり方を変えて、予算を集中させ重点目標を掲げることが必要である。新しい分野を切り開く起業家に助成するような施策も必要ではないかと感じる。
 - ・平成24年度の事業で、太陽光発電と環境対応型住宅の促進の助成が補助金ではなく、市内で利用できる商品券での支給となったことを評価する。
- (委員) ・防災機能の強化に関しては、行政だけにまかせるのではなく、地域が自ら対応する

会議の概要（続き）

ことで、防災意識が高まり、費用対効果も高まるのではないかと思う。事務局からも、力を入れていく事業として防災機能の強化ということがあったが、東日本大震災の後ということもあり、防災について考え直す、また防災対策のやり方を考えていく良い機会だと思う。

- ・後期基本計画の策定にあたっては、起業家や地元の産業をけん引している人など、新しい人を審議会には引き込んでもらい、新しい発想、地に足の着いた意見を言ってもらえるような人選をして欲しい。
- (委員) ・企業誘致は、社会情勢が変化中、業績により撤退もあり得るなど賭けみみたいな部分もある。
- ・昼間人口・交流人口を増やすことが大切である。西脇市は大阪・神戸から約1時間の距離にあり、日帰り観光としては立地が適していると考えられるため、観光にもっと力を入れるべきである。
 - ・来年度事業予定の日時計の丘公園、フォルクスガーデン黒田庄の整備・改修には期待する。
 - ・観光に対する市の取組はまだ弱い。観光は地域全体で取り組むことができるし、コストもそうかからない。また、たずさわる人も夢を持ち働ける。大きな投資をしなくても、創意工夫で対応できる分野でもある。
 - ・旬菜館を軸として6次産業化を目指すなど、外から人に来てもらえ、地元にお金が落ちる仕掛けを作っていくべきである。
- (座長) ・委員から意見や提言が出されたが、市長からコメントをしていただきたい。
- (市長) ・商工業の振興については、元々この地域にある既存の商業が弱まってきた中で、できるだけ地域内で経済を循環させる必要がある。そのために市内で利用できる共通商品券事業に取り組んだりしている。市役所からの謝礼についても商品券を使う、というように切り替えをしてきている。
- ・一番心配しているのは播州織である。業界の再編に動くべきではないかと提案をしているが、なかなか動いていないのが現状である。今月の広報の市長コラムにも書いたが、播州織総合素材展を地元開催することは、播州織の新分野を切り開く機会になるという従来とは全然違った意味があり、その中から進展が図れないかと期待している。これについては、やはり業界を中心に考えていただきたいと思っている。
 - ・工業では、上比延町に工場公園を造成し、企業立地に向けて頑張っていこうと思っている。
 - ・子どもを安心して産み育てられるまちづくりについても力を入れていかなければならない。また、先ほど意見のあったIターン、都市との交流事業、昼間人口の増加についても考えていかなければならない。防災についても、きちんと対応していきたい。
 - ・それぞれいただいたご意見は有意義な内容ばかりであり、参考にしながら市政を展開していきたい。
 - ・市の事業の集約をすることはできるが、ひとつの事業をやめて、その分を他へまわす、というのはなかなかできない。ただ、いろいろな工夫をしながら取り組んでいきたい。
 - ・市債については、私が市長に就任したときは約680億円だったものが、今は約

会議の概要（続き）

570億円となり、約 100億円減少している。しかし、去年と比較すれば増えているのは事実である。ただ、地方交付税で後年度に返還される率が高い有利な起債、それが合併特例債ということになるが、これを活用している。合併特例債は活用できる期限が決まっているので、無駄なものには使わず、できるだけ将来に負担のないようにしていきたい。

- ・うれしい話のひとつとして、市内で結婚式をやろうということを商工会議所が訴えかけているが、年間 200人近い方が結婚される中で、市内での結婚式はほとんどない。1回の結婚式での出費は 400万円程度かかっているが、これが 200人ということになると8億円というお金になる。その話をいろいろな方にしていったところ、先日関係者の皆さんがお越しになり、早速、この件について具体的な動きを起こしていこうということになった。市民の皆さんが取り組まれるのなら、行政としても全面的にバックアップをしていきたいと思っている。
 - ・全て行政でやってくれ、ということではうまくいかないので、市民の皆さんと一緒に展開していけることは一緒に取り組んでいきたい。
- (座長)
- ・委員の意見を集約すると次のようなことになる。
 - ・経済の活性化は重要であるが、地場産業だけでなく地元産業まで広げた対策が必要
 - ・行政だけのコストダウンではなく、市民も協力できるところはないか、という視点も大切である。
 - ・I ターンを考えるべきではないかという意見もあったが、働ける場所があれば人口増にもつながることから、今後研究していかなければならない。
 - ・事務事業評価が評価倒れにならないようにするため、アウトプット（活動量・産出量）よりもアウトカム（成果）志向にしていくべきである。
 - ・防災機能面における地域政策のあり方も考えないといけない。
 - ・起業的発想を持った人に総合計画審議会のメンバーになってもらってはどうか。
 - ・昼間人口をいかに増やしていくか、ということが大事であり、そのために観光産業に力を入れてはどうかということも考えていく必要がある。
 - ・私からは次のようなことを提案したい。
 - ・後期基本計画の策定に当たっては、「関連波及効果」を意識した政策の優先順位付け、つまり、1つの政策が関連する政策にどのような波及効果があるのかをシミュレーションして、政策の優先順位を決めてはどうか。政策には「横」の波及効果もあるが「縦」の波及効果もある。
 - ・例えば、小学校の時に防災教育をしっかりすれば、その子が大きくなったときに、地域の人を助けるといった意識も芽生える。また、アピカでのイベントが他市から人を呼び寄せ、それが市内消費につながるといったことも考えられる。これまでそうした議論はなかったが、そういった発想も必要なのではないか。
 - ・レベルの高い文化政策は人を呼び寄せ、レベルの高いまちづくり協議会活動は各地から視察の人を呼び寄せ、といったように経済的な効果などいろいろな分野にも波及効果を与える。観光分野では、美しいものを見せる、美味しいものを提供するだけでなく、優れた事例を見せるということも考えられる。

会議の概要（続き）

- ・余談だが、OECDの閣僚級会議における男女平等に関する資料の中で、女性の社会参加率が低い国のランキングが示されていた。低い順に1位イタリア、2位韓国、3位ギリシャ、4位日本、5位アイルランド、6位スペインであった。こうしてみると、財政状況が悪い国ばかりである。西脇市でも、例えば観光産業など女性が働きやすい環境が整えば、経済の活性化にもつながっていくのかもしれない。

○議事4 来年度の後期基本計画の策定体制について

■会議資料に基づき、事務局から説明

- (座長) ・事務局から説明があったが、御質問や御意見はないか。
- ・総合計画推進市民会議は、今年度末で一旦終了し、来年度は総合計画審議会で後期基本計画策定に向けた検討を行うこととなる。

○その他

- (座長) ・このメンバーでの最後の会議になるので、これまでの会議を踏まえて、順に意見を聞いていきたい。
- (委員) ・先ほど委員から地域での防災についての意見があったが、防災機能の強化に関しては、各地区で防災計画もあるし、訓練などもやっている。
- ・西脇工業高校の就職率が上がっている。高校駅伝の活躍による波及効果だと思うが、情報繊維科を卒業した人で、市内の繊維関係企業へ就職した人はほとんどいないのが現状である。今一番困っていることは、繊維業の後継者難と技術者不足である。そうした中で、播州織のレベルアップはなかなか難しいと思う。
 - ・県の繊維工業指導所でも、染色の技術者はゼロである。ただ、他の地域の指導所が廃止される中で、西脇に残っているのは恵まれていると感じる。
- (委員) ・前回の任期に引き続き、今期の2年間は回数が少なく、中身が薄くなったように感じ、若干寂しく感じた。来年度からの審議会は、月1回程度の開催をすれば、中身の濃い議論ができるのではないかと思う。
- ・ホームページの更新が予定されているようだが、市からの情報発信がなかなか市民まで伝わってこない。情報発信にもっと力を入れて、頑張ってもらいたいと感じている。
- (委員) ・私は専業主婦であり、世間のことはあまり分からないが、この会議でいろんな意見を聴かせていただき、勉強になった。
- (委員) ・これまでの経験や知識を基にいろいろな意見を言いたかったが、逆に勉強する機会となったかな、と反省している。ただ、この経験を今後の生活にも生かしていきたいと考えている。
- (委員) ・私はわずか1年間の委員で、2回だけの参加であったがいろいろと勉強をさせていただいた。また機会があれば参画したいと考えている。
- (委員) ・情報発信については、フェイスブックを活用できないかと思う。防災面でも役立つのではないかと思う。
- (委員) ・市が総合計画に基づいて、どういうことをされているのかという点に興味があり公募委員として参加させていただいた。私たちが知らない点についても親切に書いてあり、良い総合計画を作っていると感じた。

会議の概要（続き）

- ・せっかくの良い計画なので、市民の皆さんに、ひとつでもふたつでもこういう方針だということを知りやすく説明してほしいと思っている。そうすれば、市民にも行政との協働の機運が生じてくるのではないかと感じた。
- ・2年間の任期で、いい勉強をさせていただいた。
- (委員) ・会議後に送られてくる議事録を見て、難しいことをやっているのだな、ということが正直な感想である。総合計画の策定にもかかわったが、このように計画が大きなものになってきたのは素晴らしいことだと思う。
- ・後期基本計画の審議会には、西脇市の将来のことを本当に考えておられる方にメンバーとして加わっていただければいいと思う。
- ・私自身は自治基本条例の策定にもかかわっているが、一人でも多く、このような活動にかかわっていただける方が増えればいいなと感じた。
- (委員) ・はじめの会議で、批判ばかりでなく、行政のこともほめてほしいということも聞いていたが、つい言い方も厳しくなって、言い過ぎた部分もあるかもしれない。
- ・今の市のホームページは、見てみようという内容のものではない。ホームページのひとつのあり方として、「明日、明後日に何がある」ということが見てわかるものにしてもらいたい。
- ・市内でのまちづくり活動のブログもあるので、そうしたものともうまくリンクしていただけたらとも思う。そうすれば毎日見てもらえるようになり、それが続くと他のページも見てもらえることができ、アクセスも伸びると思う。
- (事務局) ・委員の任期は本年度末で2年の任期を迎える。これまでの活動に対してのお礼を申し上げる。
- ・平成24年度は、総合計画推進市民会議は設置せず、後期基本計画策定に向けた総合計画審議会を設置することとしている。これまでの市民会議での意見を踏まえて、審議会の中で協議し、後期基本計画に反映させていきたい。
- ・行政改革推進委員会も、今回を持って一旦終了予定である。行政改革大綱の改訂などにも意見をいただき感謝をしている。
- ・本日が最終回となる。議事録と、会議の写真もホームページにアップしたいと考えているので、ご了承いただきたい。
- (座長) ・それでは以上をもって本日の会議を終了する。

○閉会